

2016年11月10日  
東日本旅客鉄道株式会社  
大宮支社

## 倒木・倒竹対策を進めています

JR東日本大宮支社では、これまで台風や降雪等の自然災害による倒木・倒竹による輸送障害の発生を防止するため、線路に近接する樹木や竹の伐採に取り組んできました。

2015年度から樹木の健全性や線路への近接度合による伐採の優先順位を設定するなど、沿線樹木の管理を強化するとともに、地域の皆さまのご理解・ご協力のもと、集中的な伐採も進めています。

また、降雪による倒竹の発生を防止するため、新たに恒久的な対策に着手しました。

### 1 倒木による輸送障害について

倒木が発生すると、架線や信号設備などの地上設備や車両が損傷する場合があります、そのような時には倒れた樹木の撤去に加え、損傷した地上設備や車両の復旧作業をおこなう必要があることから、運転再開まで時間がかかることがあります。

特に台風や降雪の際には、広範囲で多数の倒木・倒竹が発生することもあり、多くのお客さまに多大なご迷惑をお掛けすることになります。



日光線文挾駅構内での倒木  
(2015年8月4日発生)

### 2 沿線樹木の管理強化

2015年度から鉄道林の管理を専門とする会社に、樹木の健全性や線路への近接度合をもとに伐採の優先順位を定める調査を委託しています。

これまでは樹木に対する専門知識をあまり持ち合わせていない当社社員が調査をおこなっていたため、病害虫の被害にある樹木や根が浅く倒れる恐れのある樹木を見落とすことがありました。また、当社用地外の樹木の場合は、当社用地内から見える範囲の樹木しか調査できなかったため、奥にある樹木の状態を確認できませんでした。

2015年度から始めた委託調査では、当社用地外にも立ち入り許可を得て、詳しく樹木の健全性を判定するなど、管理強化を図っています。この調査により伐採の優先順位を定め、倒木の可能性の高い樹木から順に伐採することで、倒木の予防保全に努めています。

2015年度は日光線、2016年度は宇都宮線（宇都宮駅以北）の調査をおこなっており、5年周期で当支社管内の全箇所を調査をおこなう予定です。

### 3 樹木の伐採状況

JR大宮支社では、線路点検などで当社用地外から線路や架線にかかる恐れのある樹木を発見した場合、土地所有者と協議のうえ、枝払いや伐採といった処置をおこなってきました。

2016年度は、従来から倒木被害の多い宇都宮線（宇都宮駅以北）や日光線、川越線を中心に約2,000本の樹木の伐採を計画し、2016年9月末時点で約1,000本の伐採が終了しています。



宇都宮線矢板～野崎駅間の針生トンネル付近の伐採状況（左が伐採前、右が伐採後）

#### 樹木の伐採実績と計画（2013～2016年度）

（単位：本）

	2013年度 実績	2014年度 実績	2015年度 実績	2016年度 計画	合計
宇都宮線	146	755	893	635	2,429
日光線	75	205	811	1,447	2,538
烏山線	10	16	0	0	26
川越線	73	0	1,500	35	1,608
東北新幹線	870	585	5	0	1,460
合計	1,174	1,561	3,209	2,117	8,061

### 4 倒竹対策に着手

竹は樹木に比べ、成長が早いという特徴があり、伐採後に舗装をおこなうなどの恒久的な対策を降雪前の2016年11月までに宇都宮線（宇都宮駅以北）の8箇所を実施します。

宇都宮線西那須野～那須塩原駅間での倒竹（2016年1月17日発生）



### 5 倒木発生時の早期復旧に向けた取り組み

計画的な沿線樹木の伐採を進めていますが、倒木の恐れはないと判断した樹木でも強風や降雪により倒れてしまう場合があります。そのため、台風の接近や降雪などにより、倒木が発生する可能性が高いと判断した場合は、あらかじめ伐採作業にあたる係員を沿線に待機させ、速やかに対応できる体制をとっています。